



令和8年1月27日(火) 曾根原好彦教育長表敬訪問 受賞報告



第 129 号
 令和8年3月1日
 発行 松本地区保護司会

第75回 社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」は、すべての国民の皆様が、犯罪・非行の防止と立ち直りの支援についての理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪・非行のない安全で安心な明るい社会を築くための全国的な運動です。昭和二十六年に始まって以来、今回で七十五回目を迎えました。

内閣総理大臣は主唱している法務省とともに運動を推進し、毎年度道府県知事や市区町村にメッセージを伝達し、地域での運動を展開しています。

松本市では、この運動の趣旨に賛同した機関・団体が協力して実施と推進に当たるため、松本市を単位として推進委員会を置き、松本市長が委員長を務めています。

犯罪・非行の背景には、望まぬ「孤独や社会の中での「生きづらさ」が存在していることが少なくありません。また、過去の過ちから立ち直ろうとする人々には、十分な時間と地域の中での居場所が必要で、悩める方々に寄り添い、互いに相手を受け容れることが、安全で安心な明るい社会の実現につながります。

また、作文コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活や学校生活の中で体



令和7年6月25日(水)
 委員長：臥雲義尚 松本市長
 松本市音楽文化ホール

験したことを基に、犯罪・非行のない地域づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたことを作文に書くことを通じ、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的に行われています。

今年も、県内の小・中学生の皆さんから九、三、七、六の応募がありました。

松本地区からは、小学生六一四点、中学生四五四点の応募があり、この内中学生一点が県の最優秀賞に選ばれました。ここに、入賞・入選者と最優秀賞作品を掲載させていただきます。

第75回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

長野県作文コンテスト

●中学校の部

最優秀賞

「心を

寄せる」

松本市立丸ノ内中学校

一年 赤星 璃緒

「犯罪や非行のない社会。」こんな社会になることを誰もが願っていると思うけど、犯罪や非行がなくみんなが笑顔で暮らせる社会を創ることは難しいと思います。少しでも社会が明るくなり、みんなが助け合って生きていける世の中にするために、私は「人に心を寄せる」ということを大切にしたいと考えています。

私の学年ではよく「人に心を寄せましょう。」と言われます。入学したところは人に心を寄せるということを理解して、行動にすることができませんでした。けれど、今では「人に心を寄せる」ということを率先して取り組めるようになりました。

夏休み前、私が耳の調子が悪く、病院に行ってから学校に行った時のことでした。遅れて学校につく

とすぐにクラスメートが、「大丈夫？これ、いままでの授業のノートだからよかつたら写して。」

「りおちゃんのつぎの授業の準備しておいたよ。」

などと声をかけてくれました。私と違う学校から来て、同じクラスになってまだ二ヶ月しかたつていないのに、心配して私のために行動してくれたことに感謝すると同時に、とても驚きました。これが、人に心を寄せるということだ、こんなに温かい気持ちになれるのか、と心が震えました。このとき初めて「人に心を寄せる」という意味を理解することができました。不安になってほしくない。そんな気持ちで友達に声をかけてくれたんだと思います。きっとこのような人たちが社会を明るくしていくんだと痛感しました。

遅刻して学校へ行った日から一週間後、六時間目が終わって、清掃の時間になるときでした。みんなが授業の片づけをして清掃場所に移動しているとき、友達数人が教室に残って何かをしています。私はみんな移動しているのに何をしているんだろう、このままでは清掃開始時間に間に合わない、と思

「何をしているの？」と聞きました。すると友達は、「みんなの机を前の方に運んでいるの。運んでおくと、この教室を掃除する人が大変にならないでしょう？」

と言いました。掃除をする人がやりやすく、少しでも負担を減らせるように動いていた友達の姿がとてもかっこよく見えました。私も友達のように誰かのために動ける人になりたいと思い、手伝うことにしました。机を運び終えると、担任の先生が

「運んでくれてありがとう。」と声をかけてくれました。この一言だけで私は心がとても温かくなりました。誰かのために動いて、それを見た人が声をかける、そんな連鎖が自分だけでなく、周りの人も笑顔にしていくすてきな力があるんだと感じました。

今、世の中には、犯罪だけでなく差別や虐待、いじめなどいろいろな悲しいニュースが後を絶ちません。そんな中で、「人に心を寄せる」という思いやりが誰かを救う一歩になるし、自分も相手も温かい気持ちになります。私が体験した、人に心を寄せる連鎖が起きていけば、犯罪や非行のない明るい社会に近づくと信じています。これ

は、私が周りの人からしてもらったり、教えてもらったから、心を寄せることができるようになったのです。あなたも「心を寄せる」連鎖を起こしてみませんか。



令和8年1月27日(火)
曾根原好彦教育長表敬訪問



令和8年1月5日(月)
長野県作文コンテスト
表彰式

第75回“社会を明るくする運動”
長野県作文コンテスト表彰式



入賞・入選者

◇小学校の部 (松本地区分・敬称略)

- 〈県 入選〉
- 開智小学校六年 小泉 絵奈
 - 開智小学校六年 清水 ここは
 - 芝沢小学校六年 渡辺 楓花
 - 芝沢小学校六年 飯田 ころろ
 - 寿小学校六年 林 悠貴
 - 寿小学校六年 赤羽 琉旺
 - 二子小学校六年 中藤 晃祐

◇中学校の部

〈県 最優秀賞〉

- 丸ノ内中学校一年 赤星 璃緒

- 〈県 優秀賞〉
- 鎌田中学校三年 南波 歩莉
- 〈県 入選〉
- 鎌田中学校三年 齋藤 一翼
 - 松島中学校二年 竹内 駿斗
 - 高綱中学校二年 竹村 音楽
 - 信大附属松本中学校三年 小林 美月

大切な自分をもっと信じよう



令和7年10月20日(月)
日本・韓国・台湾 専門家座談会
「社会内処遇・
保護司制度の展望」

令和7年9月9日(火)
五者懇談会 講演会
「少年鑑別所の役割と支援」



松本地区保護司会 の さまざまな活動

※五者とは
立ち直りを支援する組織
で、保護司会、BBS会、
更生保護女性会、更生保護
協力雇用主会、保護会（更
生保護施設）



令和7年10月27日(月)
視察研修
富山県呉羽青少年自然の家

令和7年10月24日(金)
飯山市文化交流館なちゅら



第70回 長野県更生保護大会

地域別定例研修会

更生保護における地域援助

十月六日、今年度第二回地域別定例研修会が行われました。「更生保護における地域援助」と言うテーマで宮下崇保護観察官より講義を受けました。今回は、保護司が元対象者から相談を受けた時の対応についての事例検討を交え、「息の長い支援」の在り方について理解を深めること、また、地域で連携することが望ましい関係機関・団体について理解を深めることが目的とされる研修でした。

講義では、息の長い支援における保護司の役割についての説明がありました。基本的に「更生保護に関する地域援助」「刑執行終了者等に関する援助」は、保護観察所が実施するもの。元対象者に寄り添い、よく話を聞き、保護観察所に繋ぐのが保護司の役割。その後のグループ討議で、その流れを確認し合いました。

西分區
福嶋
るみ



負けないで 君を待っている 未来のために

第70回 長野県更生保護大会 受賞者のみなさん おめでとうございます

松本地区関係者は次の通りです。
(敬称略・順不同)

- 法務大臣表彰
橋 昭雄
- 全国保護司連盟理事長表彰
百瀬 康弘
- (家族功労者)
鳥居 國男
- 関東地方更生保護委員会
委員長表彰
上條 琴子 高宮 一男
- 関東地方更生保護委員会
委員長感謝状
委員長表彰
上條 温
- (更生保護女性会員)
福嶋 るみ
- (BBS会員)
泉山 莉奈 小木曾 広隆
- 長野県知事表彰
大藏 章男 上條 温
- 吉江 厚
- 長野保護観察所長表彰
上條 光司 川久保 文良
- 長野保護観察所長感謝状
小林 資典 近藤 正
櫻井 伸彦
- (BBS会員)
大住 望 大畑 彩葉
鍵田 輝 志賀 元哉
- 更生保護協力雇用主
倉田 洋一
- 長野県保護司会連合会会長表彰
中村 賢 村田 由香



少年たちに希望と未来を

私が抱えた事例 シリーズ (82)

現在の担当対象者は偶然にも十代後半の少年二人である。
A君は窃盗で保護観察二年目。アルバイトをしながらの通信教育中。面接のすっぱかしは度々あるが根は素直で、「お母さんと喧嘩したら行方不明になっちゃったから何とかして欲しい」と困り事があるとすかさず助けを求めてくれる。その度、三者面談の場を設け、お互いの主張を聴く。双方が納得いくよう話し合い、歩み寄り、仲直りまで持つてゆく。時には半日以上かかる事もあった。
先に述べたようにA君は素直が故に周囲に誘導され易い傾向にある。窃盗を唆す仲間が問題なので、関わりを断つべく声掛けは毎回行っている。本人がその重要性を認識し、将来を考えて自制できる力をつける事が、今後の鍵となる。
B君は窃盗で保護観察一年目。初めて会ったのは一年前、家裁での審判日。駐在保護司として赴くと、裁判所の椅子に保護者の付添いもなく一人ポツンと座る姿があった。私は思わず

「二人で寂しいね」と声を掛けた。彼の「はい」という返事と同時に和らぐ表情を感じた。その後、保護観察の説明の際に居場所も確認した。後日担当となった時に「誰にも明かさなかつた当時の居場所をあの時私だけに教えてくれて有難う」と伝えた。
B君の母親に会ったのは初回面接時のみ。シングルマザーでB君の度重なる非行の影響で動悸、息切れなどの症状があり、息子との関わりを拒否していた。そのため母のサポートは期待していなかったが、B君の心境に変化があったのか、今は自宅に戻り、母が仕事用の弁当を作ってくれりと聞き驚いた。また、B君に連絡がつかない時、母に彼への伝言を頼むと返答があり、更に前進したと感じた。
C君は担当一ヶ月。電車内の痴漢行為で捕まり、登下校は両親が心配して車で送迎しているので、再犯の危険性は低い。しかし知的発達遅れを幼少期より指摘されているため、今後の自立・自律を目指す大きな課題がある。本人、家族にもその事を理解して貰い、専門家の協力を得て、進めて行くべき事例だと考えている。
私は全事例で必ず①事件の当事者となった事をどう思うか ②被害者が家族だったらどう思うか ③質問する。「犯罪の事実は消せないし、他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」と伝え、心に響いてくれる事を祈っている。

東分區
田中
強道

改正保護司法成立

保護司任期 二年から三年に延長

保護司の安全対策や担い手確保策を盛り込んだ改正保護司法が令和七年十二月三日、参議院本会議で全会一致により可決、成立しました。これにより、公布から一年以内に施行されます。

報酬制や公募制の導入も議論になりましたが、見送られました。

主な改正内容

■担い手確保
・適任要件を「社会的信望」から「人格識見が高い」に変更。

・保護観察所の長が人材確保の責務を負い、自治体広報の活用などを想定。

・民間企業や地方自治体に保護司活動への協力を努力義務化。

■安全対策

・国が安全な面接場所の確保を責務と明記。

■制度の定着

・任期を二年から三年に延長。

■運用緩和

・保護区ごとの活動前提を緩和し、近隣施設の利用を容易に。

■使命の変更
・「地域社会の浄化」から「安全な地域社会の実現」などに文言を変更。

保護司の異動

(敬称略・順不同)

〈新任〉

令和七年十二月一日付け

大須賀 和 美(東分区)

山田 深 雪(北分区)

末永く宜しく願います。

荣誉に輝く 秋の褒章

(敬称略)

◇藍綬褒章

更生保護功績

古田 道康

長年のご活躍に対して受章されました。

心よりお祝い申し上げます。

「まつもと保護だより」 松本市ホームページに掲載

掲載場所

トップページ→分類でさがす→暮らし・安全→防犯・安全→安全・安心な町づくり→社会を明るくする運動→まつもと保護だより

松本地区保護司の担当する対象者数

令和8年1月5日現在

| | | | |
|------|-----|--------|-----|
| 1号観察 | 15件 | 生活環境調整 | |
| 2号観察 | 3件 | 少年院在院 | 5件 |
| 3号観察 | 0件 | 刑務所在監 | 26件 |
| 4号観察 | 12件 | | |
| 計 | 30件 | | |

1号観察とは、家庭裁判所の決定により、保護観察に付された少年。
2号観察とは、少年院から仮退院を許された少年。
3号観察とは、刑務所から仮釈放を許されている人。
4号観察とは、刑の執行猶予され、保護観察に付された人。
生活環境調整とは、収容中の段階から、その者の改善更生と社会復帰にふさわしい生活環境をあらかじめ整えるための措置を講ずること。

ホゴちゃんの一言

年が明け「気持ち新たに：」と言いたいところだが、テレビをつければ世界あちこちで勃発する紛争、増々深刻となる政治問題、一向に減らない詐欺や強盗、凄惨な事件等のニュースばかり。一体いつになったら心穏やかに過ごせる日が来るのだろう。我々が目指す「明るい社会」が遠のいていく様で鬱々たる気分になる。しかし、自分が動けるうちは落ち込み、立ち止まっては居られない。馬のように速くは走れなくてもまずは今日の一步を踏み出そう。

①家族、近隣への元氣な挨拶

②対象者へ心を込めて寄り添う何事も基本に立ち返って！

と自分を鼓舞したばかりであった

▼そんな折「新春笑い初め」笑い

会で拝聴。ウソの笑い・本物の笑

いを身体は区別が出来ないらしい。

い。「ほっ・ほっ・ほっ・ほっ・は」

に引き込まれ、いつしか満場大笑

い、ストレスホルモンの減少加速。

終盤には「ふるさと」を全員でハ

ミング合唱。鼻歌は頭から骨伝導

し振動が体中へ。リラククス効果

絶大であった。